

2027年度

名古屋大学大学院創薬科学研究科基盤創薬学専攻
博士前期課程

一般選抜 学生募集要項

創薬科学研究科では2022年からインターネット出願を開始しました。出願に必要なパソコンやプリンター等のデバイス、メールアドレス、顔写真データ、支払方法、提出書類等を確認してから出願してください。また出願前には、マイページを登録することになりますので、時間には余裕を持って出願をおこなってください。なお、メールアドレスについては、大学から入学試験に関する重要なお知らせが配信されることがあります。変更や削除の可能性がなく、日常的に確認しやすいものを準備してください。

***インターネット出願サイトは出願期間の2週間前から利用可能です。**

名古屋大学

名古屋大学大学院創薬科学研究科のアドミッションポリシー

近年の創薬科学研究においては、理・工・農・医・薬など様々な分野との融合が急速に進み、多くの課題の解決には、複数分野に跨がる融合的発想に基づく新しい研究開発が強く求められています。創薬科学研究科は名古屋大学の研究教育の活力である自由闊達さを継承しながら、教育理念として「多分野融合教育による次世代を先導する創薬基盤研究者」の養成を目指します。

そこで、本専攻では、上記分野に関する基礎的な知識と技術を身につけたうえで、複数分野に跨がる融合的発想に基づく専門的技術と理論を駆使して、創薬科学の様々な問題を解決することを目指す、創造力にあふれる人を求めます。

また、本研究科では、「有機化学」「生命科学（生化学・分子生物学・分子構造学）」のいずれかの科目に関する基礎学力と、科学英語の基礎的読解力に関して、筆記及び口述試験を行い、志望する研究分野に対する明瞭な志向と勉学の熱意とともに評価し、入学者を選抜します。

2027年度 名古屋大学大学院創薬科学研究科基盤創薬学専攻 博士前期課程 学生募集要項

2027年度本研究科基盤創薬学専攻博士前期課程に入学を志願する学生を下記により募集する。

1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者。

- (1) 大学を卒業した者及び2027年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び2027年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2027年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2027年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満すものに限る。）又は専攻科（当該専攻科を置く専修学校の特定専門課程（法第125条の2第1項に規定する特定専門課程をいう。）における教育との連続性に配慮した教育課程を編成していることその他の文部科学大臣が定める基準を満すものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2027年3月31日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 2027年3月31日までに大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程若しくは我が国において外国の大学の課程（その修了者が学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
(注) P.9の「出願資格(9)により出願する者について」を参照すること。
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2027年3月31日までに22歳に達する者
(注) P.10の「出願資格(10)により出願する者について」を参照すること。

2. 募集人員

約32名

3. 講座・分野

講座	分野
創薬有機化学	天然物化学、分子設計化学、プロセス化学
創薬生物科学	分子微生物学（注1）、細胞生化学（注1）、細胞分子情報学、細胞薬効解析学
創薬分子構造学	構造分子薬理学、構造生理学

志望する分野を3つまで選択することができる。ただし、第2・第3志望はその研究室への配属を希望する場合のみ記入すること。

(※) 第1志望分野の担当教員には必ず出願前に直接連絡を取り、研究内容等について確認すること。他の志望分野に関しても問い合わせを受け付ける。各分野の担当教員に関しては別表3を参照のこと。

(注1) 分子微生物学分野及び細胞生化学分野では募集は行わない。志望する分野に選択した場合、無効となるので注意すること。

4. 出願登録期間・願書受付期間・出願手続

出願手続は、インターネット出願システムでの出願登録及び入学検定料の支払いを行った後、出願期間内に必要な出願書類などを提出することにより、完了する。

【インターネット出願登録期間及び入学検定料払込期間】

2026年6月8日（月）から2026年6月26日（金）14時59分まで

インターネット出願での出願登録及び入学検定料の支払いを行っただけでは、出願手続完了にはならない。なお、支払い期限は、出願登録日を含め4日間であり、支払い期限内に入金がない場合は、出願登録は自動的にキャンセルとなるので注意すること。（キャンセルとなったときは再登録すること）

※入学検定料払込期間の最終日（2026年6月26日（金）14時59分）までの日数が4日より短い場合は、入学検定料払込期間の最終日が支払い期限となる。

【願書受付期間】

2026年6月22日（月）から2026年6月26日（金）16時まで（必着）

受付時間 午前9時から16時まで（12時から13時は除く）

志願者は出願書類を取りそろえ、郵送又は持参にて本研究科に提出すること。

5. 出 願 書 類

<p>①名古屋大学大学院志願票及び写真票</p>	<p>〔インターネット出願システムから、A4サイズで片面カラー印刷すること。〕</p> <p>※出願前3か月以内に撮影した正面向き、上半身、無帽、背景なしの顔写真データ（2MBまで）を用意し、インターネット出願システムからアップロードすること。</p> <p>インターネット出願システムに入力した住所に合格通知を送付することから出願後に住所が変更になる場合には必ず創業科学研究科入試担当(下記メールアドレス)に連絡すること。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p style="text-align: center;">souyaku_nyushi@t.mail.nagoya-u.ac.jp</p>
<p>②志望分野選択票及び履歴書</p>	<p>本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、作成すること。</p>
<p>③志願理由書</p>	<p>本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、作成すること。</p>
<p>④卒業(見込)証明書</p>	<p>出身大学が発行したもの (注1) 高等専門学校専攻科在籍者は学士学位授与申請予定証明書を、修了者は学士学位取得証明書を提出すること。 (注2) 出願資格(9)・(10)の者は不要。</p>
<p>⑤成績証明書</p>	<p>出身大学が発行したもの (注1) 高等専門学校専攻科在籍者及び修了者は本科及び専攻科の成績証明書も提出すること。 (注2) 大学に編入学した者は、編入学前に在籍していた教育機関の成績証明書も提出すること。</p>

	(注3) 出願資格(9)・(10)の者は不要。
⑥TOEIC/TOEFLの スコアシート	<p>・対象となるスコアシート TOEFL-iBT/PBT、TOEIC 公開テストのいずれかの試験の成績を採用する。複数のスコアシート提出を認める。団体受験用のTOEFL-ITP および TOEIC-IP テストは認めない。ただし、名古屋大学に在籍する学生のみ、3年次に受験した TOEFL-ITP のスコアシートの提出を認める。</p> <p>・スコアシートの提出 TOEFL については以下の①と②の両方を提出すること。 ①公式スコア「Official Score Report」 ②受験者に届く「Test Taker Score Report」(PDF)を印刷したもの なお、①の提出時は以下の点に留意すること。 ・「Official Score Report」は、最終提出期限までに ETS から名古屋大学に届くように所定の手続きをすること。(手続き時に名古屋大学の Institution Code D377 を必ず指定すること。なお、Department Code は「45 Biomedical Sciences」又は「62 Chemistry」を指定すること。指定送付先にデータが到着するまでに2週間程度かかる場合があり、到着が遅れる場合もあるので、十分な時間的余裕を持って手続きをすること。</p> <p>TOEIC については「Official Score Certificate」(公式認定証)の原本を出願時に提出すること。</p> <p>・スコアシートの有効期限 出願時から過去2年以内に実施され、出願時に提出可能なものを有効とする。</p> <p>・得点の換算 提出された TOEFL-iBT/PBT および TOEIC 公開テストのスコアは、それぞれ独自の計算式により換算する。名古屋大学の学生が提出した TOEFL-ITP のスコアも同様に換算する。複数のスコアシートが提出された場合、換算後の点数が最も高いスコアシートを採用する。</p> <p>(注1) TOEFL および TOEIC の試験は実施日や実施会場が限られている。試験結果が送付されるまでの日数を考慮の上、各試験の開催日等を調べて、早めに受験すること。受験料は自己負担となる。 (注2) 2026年5月31日、6月13日の TOEIC 公開テストのスコアシートに限り、出願期間とは別に後日提出することができる。最終提出期限は、2026年7月29日(水)16時必着とし、それ以降の提出は受け付けない。 ※2026年5月31日、6月13日の TOEIC 公開テストのスコアシート以外は、出願期間中のみの受け付けとなるので注意すること。</p>
⑦在留カード(両面)のコピー (海外在住者はパスポートの コピー)(該当者のみ)	日本国籍を有しない志願者は提出すること。現在海外に居住している者は、パスポートのコピー(顔写真のあるページ)を提出すること。
⑧受験承認書(該当者のみ)	官公署その他民間会社等に在職している者は提出すること。(様式任意)

⑨類型該当性の自己申告書	本研究科ホームページに掲載する所定用紙に該当結果を記入し提出すること。 記入の際は、「類型該当判断のフローチャート」を参照すること。 また、一部の出願者においては、合格時に「誓約書」の提出が必要となる。
⑩宛名用紙	出願書類を郵送する場合は、インターネット出願システムから「出願用宛名用紙」をカラー印刷し、角形2号の封筒に貼りつけて、締切日時までに必着するよう送付すること。

注意事項

- (1) 出願書類は、日本語又は英語で記述すること。日本語又は英語以外で作成されている証明書等は、日本語又は英語の訳文を添付すること。
- (2) 出願書類の作成において生成系 AI は使用しないこと。
- (3) 出願書類に不備のある場合は受け付けないので留意すること。
- (4) 出願書類の受理後は、いかなる理由があっても書類の変更および返却は認めない。

6. 入学検定料

- (1) 入学検定料 30,000 円

入学検定料のほかに支払手数料が必要となる。

※国費外国人留学生として入学予定の者は入学検定料不要。

- (2) 払込期間 P.3 4. 出願登録期間・願書受付期間・出願手続に記載のとおり

- (3) 入学検定料の返還について

出願書類を受理した後は、納入済みの入学検定料は返還しない。ただし、以下に該当する場合は、納入された入学検定料を返還する。なお、返還にかかる振込手数料は志願者負担とする。

ア 入学検定料納入後、出願しなかった場合または出願が受理されなかった場合

イ 入学検定料を二重に払い込んだ場合

※ 入学検定料の返還は銀行振込で行う。海外の銀行の口座に返還する場合には、返還される金額は大きく減額される他、返還に多大な日数を要するので、入学検定料の納入は慎重に行うこと。

※ 返還請求方法については、名古屋大学 受験生応援サイト (<https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/>)

→ 入試情報を知りたい → 大学院入試 → 入学検定料の支払いを確認すること。

7. 受験票の印刷について

2026年7月初旬に、受験票印刷についての連絡をインターネット出願システムに登録したメールアドレス宛てに通知する。受験票はあらかじめインターネット出願システムからA4サイズで片面印刷し、準備しておくこと。

2026年7月24日(金)までに通知が無い場合は、13.(10)入学試験に関する照会先に必ず問い合わせること。

8. 選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験および口述試験により行う。

(注意) 受験を希望するものは、必ず**出願前までに**第1志望分野の教員に連絡を取ること(別表3)。事前連絡の無いものは、面接試験においてその違反事実について採点に反映されることがあるので注意すること。また、試験の言語は基本的に日本語で行うが、解答は日本語、英語どちらで行っても良い。

(1) 筆記試験 2026年8月5日(水)

科目	時間	内容	参考書
基礎科目	10:00~11:30	基礎的な「有機化学(合成化学・分析化学・生物有機化学)」「生命科学(生化学・分子生物学・分子構造学)」に関して、「有機化学系」「生命科学系・分子構造学系」からそれぞれ1問、合計2問を出題し、志望分野を問わずどちらか1問選択する。	有機化学系 ・ボルハルト・ショアー 現代有機化学(上下)
専門科目	13:00~15:00	下記2科目から6問出題し、科目を問わず計3問を選択する。 ・有機化学系科目(合成化学・分析化学・生物有機化学)3問 ・生命科学系・分子構造学系科目(生化学・分子生物学・分子構造学)3問	生命科学系・分子構造学系 ・エッセンシャル細胞生物学

(注) 系に属する分野については以下のとおりである。

有機化学系(天然物化学分野、分子設計化学分野、プロセス化学分野)

生命科学系(分子微生物学分野、細胞生化学分野、細胞分子情報学分野、細胞薬効解析学分野)

分子構造学系(構造分子薬理学分野、構造生理学分野)

(2) 口述試験 2026年8月6日(木)

8月6日(木)13時00分から、第1志望分野を中心に口述試験を行う。

試験日時等の詳細は、インターネット出願システムに入力したメールアドレス宛てに7月初旬頃通知する。

受験番号により集合時間が異なるので注意すること。2026年7月24日(金)までに通知が無い場合は、13.(10)入学試験に関する照会先に必ず問い合わせること。

外国人受験者は、英語と日本語の能力も審査する。

(3) 予備日 2026年8月7日(金)

自然災害などで予定通り試験が実施できなかった場合の予備日とする。

9. 試験場

名古屋大学東山キャンパスで実施予定であるが、詳細は、インターネット出願システムに入力したメールアドレス宛に通知する

10. 合格発表

2026年8月17日(月)正午

研究科ホームページ(<https://www.ps.nagoya-u.ac.jp>)に掲載する。後日郵送にて本人あてに通知する。試験実施状況により、若干名の補欠合格を出す場合がある。

11. 入学手続

入学手続については2027年2月下旬本人に通知する。手続日は、2027年3月上旬の予定である。

12. 入学科及び授業料

- (1) 入学科 282,000 円
- (2) 授業料 前期分 267,900 円 (年額 535,800 円)
 - (注1) 入学科は入学手続き時に納入する。授業料は、前期及び後期に分けて、前期にあつては 5 月、後期にあつては 11 月に納入する。
 - (注2) 授業料の納入方法は、入学後登録する預貯金口座から引き落とす「口座振替」により納入する。
 - (注3) 入学時及び在学中に学生納付金額の改定が行われた場合には、改正時から新たな納付金額が適用される。
 - (注4) 国費外国人留学生は、入学科・授業料とも不要。

13. その他注意事項

- (1) 本研究科では、長期履修学生制度を定めている。長期履修学生制度とは、職業を有している等の事情により時間的制約があり、標準修業年限では修了が困難な学生に対して、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、学位取得することを認める制度である。詳細は、以下のホームページ及び入学手続き通知を参照すること。
https://www.nagoya-u.ac.jp/academics/curriculum/long_term/index.html
- (2) 出願資格、出願書類及び選抜方法等本研究科入学試験に関して不明な点は、あらかじめ問い合わせること。
- (3) 出願書類に虚偽の記入をした者に対しては、入学後でも入学許可を取り消すことがある。
- (4) 障害等があつて試験場での特別な配慮を必要とする者にあつては、2026 年 6 月 5 日 (金) までに、以下の 3 点を創薬科学研究科事務室入試担当へ提出すること。
 - ① 受験上の配慮申請書
(障害の状況、受験上配慮を希望する事項とその理由等を記載したもの、様式随意、A4 サイズ)
 - ② 障害等の状況が記載された医師の診断書、障害者手帳等 (コピーでもよい)。
 - ③ 障害等の状況を知っている第 3 者の添え書 (専門家や出身学校関係者などの所見や意見書)。
* 適宜それ以外の書類を添付しても構わない。なお、受験や入学後の修学に関して相談の希望がある者は、出願期限までにお問い合わせください。
- (5) 名古屋大学においては構内への車両の入構規制を実施しているため、受験の際は、公共交通機関を利用すること。
- (6) (特別に許可された場合を除き) 試験時間中に以下の機器等を使用した場合は不正行為となる。
携帯電話、PC、スマートフォン、ウェアラブル端末 (スマートグラス、スマートウォッチなど)、タブレット端末、電子辞書、IC レコーダー、イヤホン、音楽プレーヤー、電卓等の電子機器類
※イヤホンについては、耳に装着していれば使用しているものとみなす。
不正行為を行った場合、その場で受験の中止と退室が命じられ、それ以後の受験はできない。また、受験したすべての教科・科目の成績を無効とする。なお、不正行為については、状況により警察へ被害届を提出するなどの対応をとる場合がある。
- (7) 出願時に得た個人情報内容及び入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用する。また、入学者についてのみ①教務関係 (学籍、修学指導等)、②学生支援関係 (健康管理、就職支援、授業料免除、奨学金申請等)、③授業料徴収に関する業務を行うために利用する。
- (8) 名古屋大学 (東海国立大学機構) では、「外国為替及び外国貿易法」に基づく安全保障輸出管理制度により、「東海国立大学機構安全保障輸出管理規程」(以下「規程」という。)を定め、貨物の輸出、技術の提供 (人の受入を含む) について厳格な審査を実施している。規程に抵触する場合は、入学試験の選抜に合格しても入学が認められない又は入学後の研究活動等に制限がかかることがあるため、留意すること。詳細については、以下のウェブサイトを参照すること。なお、該当者には、個別に通知する。また、この場合も既納の検定料は返還しない。

<https://www.aip.nagoya-u.ac.jp/securityexport-extramural>
- (9) 合否判定の方法及び基準
大学院創薬科学研究科博士前期課程のアドミッションポリシーに基づき、創薬科学を探究するために必

要な学力と専門知識および英語能力を提出書類（外部試験成績）および基礎科目、専門科目筆記試験により評価するとともに、面接（口述試験）を用いて、志望する研究分野に対する明瞭な志向と研究への熱意および研究遂行能力について評価し、最終合格者を決定します。

(10) 入学試験に関する照会先

名古屋大学大学院創薬科学研究科事務室
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 創薬科学研究館 1階
TEL：052-747-6780・6775 FAX：052-747-6781
E-mail：souyaku_nyushi@t.mail.nagoya-u.ac.jp

不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、下記のホームページでお知らせしますので、出願前や受験前に必ず確認すること。

◎創薬科学研究科ホームページ

URL： <https://www.ps.nagoya-u.ac.jp>

◎連絡窓口

名古屋大学大学院創薬科学研究科事務室

E-mail：souyaku_nyushi@t.mail.nagoya-u.ac.jp

出願資格(9)により出願する者について

1. 事前審査

出願資格(9)により出願するものについては、第一志望分野の筆頭教員とあらかじめ面談を済ませた上で、次の書類を2026年5月29日(金)(必着)までに、創薬科学研究科事務室〔募集要項P.8の12.(10)入学試験に関する照会先を参照〕へ郵送し、出願資格の有無について事前照会すること。郵送の際は簡易書留郵便で「博士前期課程事前審査申請」と朱書きすること。

本研究科で事前審査を実施し、その結果は2026年6月12日(金)までに本人宛に発送する。

(1) 出願資格(9)による出願資格事前審査願(本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、本人が記載。)

(2) 志望分野選択票及び履歴書(本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、本人が記載。)

(3) 成績証明書(所属大学発行のもの)

(4) 返信用封筒1通 出願資格審査結果通知用

長形3号封筒(12×23cm)に本人のあて名を記入し、460円切手を貼ったもの。

2. 出願書類等

審査の結果、出願資格〔有〕と判定された者の願書受付期間及び出願書類等は、P.3以降の4～5を参照すること。ただし、志望分野選択票及び履歴書、成績証明書については出願時の提出は不要。

出願資格(10)により出願する者について

1. 出願資格

本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2027年3月31日までに22歳に達する者

2. 個別審査

出願資格(10)により出願する者については、あらかじめ次の書類を 2026年5月29日(金)(必着)までに、創薬科学研究科事務室〔募集要項 P.8 の 12. (10)入学試験に関する照会先を参照〕へ郵送（簡易書留郵便で封筒の表に「博士前期課程個別審査申請」と朱書）し、出願資格の有無についての個別審査を願い出ること。

本研究科で資格審査を実施し、その結果は2026年6月12日（金）までに本人宛に発送する。

(1) 出願資格(10)による出願資格個別審査願（本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、本人が記載。）

(2) 志望分野選択票及び履歴書（本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、本人が記載。）

(3) 大学を卒業した者と同等以上の学力があることを示す資料

① 履歴に短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校等の学歴を有する者

これらについての卒業又は修了証明書（今年度中に卒業又は修了する見込みの者については、その証明書）、成績証明書及びシラバス（授業要目）

② 履歴に技術的・専門的職業についての職歴を有する者

その期間及び職務内容を明記した在職証明書

③ 履歴に研究歴を有する者

研究歴証明書（本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、所属の長等が証明したもの）

研究実績調書（本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、本人が記載）

研究成果報告書（本研究科ホームページから所定の様式をダウンロードし、本人が4,000字程度で作成、論文形式とする）

④ 業績として学術論文、著書、研究発表、特許、作品等を有する者

それらの写し

(4) その他、審査の参考となる資料（自薦、他薦による推薦書など）

(5) 返信用封筒 1通 出願資格審査結果通知用

長形3号封筒（12×23cm）に本人のあて名を記入し、460円切手を貼ったもの。

3. 出願書類等

審査の結果、出願資格〔有〕と判定された者の願書受付期間及び出願書類等は、P.3以降の4～5を参照すること。ただし、志望分野選択票及び履歴書については出願時の提出は不要。

◆ 創薬科学研究科について

近年、高齢化社会の到来に加え、生活習慣病、腫瘍、新興感染症なども急速に増加してきており、先進創薬・医学が果たす役割の重要性はますます高まっている。一方、製薬企業における従来型創薬研究の限界により、新薬の創出は縮小傾向にあり、創薬を通じた社会安定化に資するためには、新薬を創出する科学技術力の再活性化を促進し、製薬産業が抱える問題点を解決する先導的研究者の育成が急務である。

創薬とは、「薬学や医学、化学及び生物工学などの研究開発領域において、薬剤の発見や設計等のプロセスを経て、新たな医薬品が製品となるまでの一連の過程」と定義される。そこには、薬理学や薬剤学などの薬学固有の領域に加えて、医薬品の設計合成に関わる有機合成化学、疾病や薬効の解析の基礎となる生命科学、タンパク質の構造や医薬品との相互作用を解析する分子構造学といった基礎科学を含む広い領域にわたる研究・教育が深く関わっている。従って、創薬科学には、薬学のみならず、理学、工学、農学、医学といった多様な学術分野を総合した教育・研究の基盤形成が極めて重要である。

名古屋大学は、理学・工学・農学部の理系学部を舞台に、天然物化学、有機合成化学分野及び、生命科学分野で世界に伍して最先端の研究成果を上げてきた基盤研究力を持っている。即ち本学には、創薬を基礎科学の発展から支える高度な専門業績が確保されており、次世代創薬という社会的要請を満たす新しい人材育成の土台がある。従って、新たな薬学教育の拠点として本学に創薬科学研究科を設置することにより、これまで個々に発展してきた理系学術分野を融合し、その研究基礎力の実績を十分に活用することに加え、独自の横断的な多分野融合創薬学教育・研究が可能となる。

このような新しい教育目的を達成し、次世代創薬を先導する人材の輩出を理念として、2012年4月に本学は大学院創薬科学研究科を創設した。創薬科学研究科は「多分野に跨る学術基盤を融合した高い研究開発能力を備え、広い視点から次世代創薬を先導する人を育てる」ことを大学院教育の基本方針として掲げ、全学共通の教育目的と学位に照らして設定した『創薬科学研究者としての基盤力』、『実践的融合力』、『高度な専門力』を3つの教育目標としている。この教育理念・教育目標を実現するため、理学・工学・農学・薬学の学術分野を融合した特長ある多分野融合型教育課程を編成し、学内外から幅広い間口で受け入れた学生に対して理・工・農学に関わる基盤分野と、化学物質としての医薬品とその生体・生命との関わりをバランスよく教育する融合型の創薬科学教育を実施することをカリキュラム・ポリシーとして定めた。

<別表1>

◆ 本研究科基盤創薬学専攻の各講座(分野)の主な内容

講座	分野	内 容
創薬有機化学	天然物化学	天然の動植物・微生物から単離される有機化合物(天然物)は、しばしば顕著な生物活性を示し、その誘導体を含め医薬品へと応用されている。天然物のもつ複雑骨格の構築研究は、天然物様の特徴をもつ新規化合物の創製にも繋がり、創薬分野における重要な物質供給基盤となる。本分野では、天然物の全合成を主体とした各種化合物の合成研究を実施し、化合物を中心に据えた創薬について研究・教育を行う。
	分子設計化学	医薬品としての機能が期待される候補有機化合物の分子設計は、創薬科学において極めて重要な位置を占めている。候補化合物から最終的な医薬品へと至る過程においても、所望の薬効を増強しつつ、有害な副作用を抑制するための合理的な誘導体分子設計と効率的合成の双方が不可欠である。本分野では、有機合成化学を基盤として、創薬につながる新規生理活性分子の設計、ならびにその合理的合成法の創出を両輪とする創造的研究・教育を行う。
	プロセス化学	優れた医薬品をより早く、より安価に、なおかつ廃棄物をなるべく排出せずに世の中に送り届けることは創薬における重要課題であり続けている。本分野ではこの重要課題を解決するため、流路中で溶液を流しながら反応させるフロー合成技術や自動合成技術といった工学的な合成技術の開発を基盤とし、有機合成化学に対する理解を深めるとともに、真に効率的な合成プロセスの創出について教育・研究を行う。
創薬生物科学	分子微生物学	微生物には、創薬資源ならびに生産主体(抗生物質の生産など)としての側面と、薬剤のターゲット(感染症の原因)としての側面があり、創薬科学における重要な研究対象である。本研究分野では、原核微生物ならびに真核微生物を対象に、微生物が有する新たな生理機能の探索とその分子レベルでの解明を通して、創薬開発に寄与する基礎的な研究を展開すると共に、これらに関連した教育を行う。
	細胞生化学	生物に由来するタンパク質等の生理作用因子は、創薬の基盤研究として必須な対象である。本研究分野では、主に動物細胞における、酵素、抗体、分化増殖因子などの生理作用を有するタンパク質の性状と機能調節のメカニズムを、生化学・遺伝子工学的・分子細胞生物学手法や動物個体を用いて解析する。得られる知見や技術を基に、創薬科学に寄与する新規有用機能分子の作用機構を研究・教育する。
	細胞分子情報学	創薬における新規候補物質の設計・評価・スクリーニング行程では、バイオロジーの基礎科学的知識と効率化のための実用化テクノロジーの融合が必要とされ、細胞および生体分子から得られる多次元情報の有効活用が求められている。本研究分野では、細胞工学・生体材料工学・医療工学から得られる生物情報を、生物情報処理・生物統計学によって解析し、創薬科学支援技術開発の研究・教育を行う。
	細胞薬効解析学	ヒトを含む複雑な生命体や現象を理解するには、分子や細胞レベルからシステムレベル、個体レベルの異なる階層を貫いて統合的に解析することが重要である。本分野では、脳・神経機能の理解や普遍的な動作原理の解明、それらに基づいた神経・精神疾患および眼疾患の病態解析や病因究明、予防・治療法の開発を目指した多分野融合研究を実施する。また、生体機能の基盤となる生理学・解剖学、薬物治療の基盤となる薬理学を軸として、神経科学分野および再生医療分野における新規治療法開発に必要な研究能力を育成するための教育を行う。
創薬分子構造学	構造分子薬理学	医薬品の作用機構解明や体内動態の制御、創薬標的タンパク質の機能解明に、その立体構造や分子間相互作用の定性的・定量的解析が必須である。こうして得られた情報を活用することは、革新的な創薬の迅速な実現につながる。本分野では、次世代医薬品(中分子医薬品・核酸医薬品)開発をも視野に入れつつ、核磁気共鳴法を中心とした構造生物学的手法と有機合成化学を駆使し、立体構造に立脚した分子薬理学の研究・教育を行う。
	構造生理学	細胞膜や細胞内膜に発現する膜タンパク質は生命現象の理解に重要であるばかりではなく、創薬標的分子としても大きな割合を占めている。その構造情報は基礎研究として機能の理解に役立つとともに、新規創薬に向けた化合物設計にも応用できる。本分野では電子顕微鏡法を中心とした構造解析手法を用い、創薬標的として重要な膜タンパク質の立体構造研究を行うとともに、膜を介した情報伝達の分子機構解明を目的とする構造生理学の研究・教育を行う。

<別表 2>

◆教員一覧

講座	分野	教授	准教授	講師	助教
創薬有機化学	天然物化学	横島 聡			榎窪 成祥
	分子設計化学	山本 芳彦	安井 猛		
	プロセス化学	布施 新一郎			山崎 直人
創薬生物科学	分子微生物学	饗場 浩文 ※ (2028年3月退職予定)			大塚 北斗 島崎 嵩史
	細胞生化学	人見 清隆 ※ (2027年3月退職予定)			辰川 英樹 辻 徳治
	細胞分子情報学		加藤 竜司		
	細胞薬効解析学	小坂田 文隆			竹内 遼介
創薬分子構造学	構造分子薬理学	廣明 秀一	兒玉 哲也		日比野 絵美
	構造生理学	大嶋 篤典	渡邊 正勝		佐久間 航也

※分子微生物学分野及び細胞生化学分野では、募集は行わない。

<別表 3>

◆教員連絡先一覧

講座	分野	教員	連絡先
創薬有機化学	天然物化学	横島 聡	yokoshima.satoshi.v7@f.mail.nagoya-u.ac.jp
	分子設計化学	山本 芳彦	yamamoto.yoshihiko.y9@f.mail.nagoya-u.ac.jp
	プロセス化学	布施 新一郎	fuse.shinichiro.z3@f.mail.nagoya-u.ac.jp
創薬生物科学	分子微生物学	饗場 浩文	aiba.hirofumi.k2@f.mail.nagoya-u.ac.jp
	細胞生化学	人見 清隆	hitomi.kiyotaka.t9@f.mail.nagoya-u.ac.jp
	細胞分子情報学	加藤 竜司	kato.ryuji.j7@f.mail.nagoya-u.ac.jp
	細胞薬効解析学	小坂田 文隆	osakada.fumitaka.x3@f.mail.nagoya-u.ac.jp
創薬分子構造学	構造分子薬理学	廣明 秀一	hiroaki.hidekazu.j7@f.mail.nagoya-u.ac.jp
		兒玉 哲也	kodama.tetsuya.c6@f.mail.nagoya-u.ac.jp
	構造生理学	大嶋 篤典	oshima.atsumori.b9@f.mail.nagoya-u.ac.jp